

# 学会印象記

## 第11回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS2019)

会 期：2019年6月13日(木)～15日(土)

会 場：札幌コンベンションセンター

大会長：内尾 祐司 [島根大学医学部整形外科学 教授(診療科長)]

荒木 大輔

神戸大学大学院医学研究科外科系講座整形外科学

日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (Japanese Orthopaedic Society of Knee, Arthroscopy and Sports Medicine ; JOSKAS) は、関節鏡・膝関節・スポーツ医学およびその関連分野に関する基礎的・臨床的研究の促進を図り、整形外科学の発展に貢献することを目的に設立された学会である。2009年に日本膝関節学会と日本関節鏡学会が発展的に統合され誕生したJOSKASであるが、2019年6月13日～15日、札幌コンベンションセンターにおいて島根大学医学部整形外科教授 内尾祐司会長のもと、第11回JOSKASが開催された(写真1)。今回の学会は次の新しい10年に向け、JOSKASのさらなる発展を期して、“融合、革新、そして次の10年へ”をテーマとして、海外からも34名の招待講演、さらにイタリアのItalian Society of Knee Surgery, Arthroscopy, Sports Traumatology, Cartilage and New Arthroscopy Technologies (SIGASCOT) から

のTravelling fellow 3名のゲストを迎えての開催となった(写真2)。欧米のみならず、アジア(インド、インドネシア、フィリピンなど)の関節鏡学会と連携した18の国際シンポジウムと6の国際パネルディスカッションが企画され、英語での熱い討論が繰り広げられていた(写真3)。まさに国際化を目指す会の目的に一致したものであった。また、自家培養軟骨移植術の第一人者として高名なLars Peterson先生が同術式に関する日本との違いを詳細にご講演頂いたり、Platelet Rich Plasma (PRP)や細胞治療の臨床応用やiPS細胞、間葉系幹細胞などの臨床応用に関する講演があったりと、再生医療がスポーツ医学の分野にも浸透していることが印象的であった。

特別講演では元日本代表男子サッカーチーム監督である岡田武史氏が「チームマネジメント～今治からの挑戦～」につきご講演された。日本代表チームを率い



写真1 会場全景(札幌コンベンションセンター)